

# らららん8号



2018.9.6

## 親子のコミュニケーションは？

保護者の皆さんと話をするとうちの子は、園であったことや友だちのことはあまり話してくれない」という声をときどき聞きます。もちろん、お子さんの性格による部分もあるでしょうが、親の接し方で子どもの口を重くさせていることもあるようです。

口を重くさせている原因の一つに、“親の知りたい”が全面に出て、質問攻めにしているケースがあるようです。「今日はどうだった?」「どんなことを思ったの?」と気がつく矢継ぎ早に質問をしていることがあるようです。でも、そんなとき、お子さんはどんな様子になるでしょう?いろいろな質問攻めにあうことは、子どもたちは苦痛に感じることも多いのです。やりとりをしながら、子どもたちなりに考えます。ボコを出すと、叱られる可能性もあると思うと、うかつな返答はできません。自然に口が重くなるのも仕方ないかな?と思うのです。親と子どもの関係は、育てる人と育てられる人の関係ですが、主従関係ではありません。刑事さんが取り調べをする感じになっていないか気をつけてほしいのです。



また、お子さんが話すときは、途中で中断しないでよく聞いてあげてほしいのです。「ああ、そんなんだ」とか「なるほどね」と相槌を打ちながら、極力指示的な言い方にならないように気をつけます。お子さんが「困ったんだ」と話せば「本当に大変だったんだね」とか「同じようなことがお母さんの小さい頃にもあったなあ」とか、共感することが大切ではないかと思うのです。

他にも、夕食の時に親子でクイズを出し合うというお話を聞いたことがあります。子ども「今日、ぼくは園でとてもうれしいことがありました。どんなことでしょう。①先生に絵をほめられた ②給食を残さず食べた ③なわとびができた」母「③と思うよ」こんな感じです。交互にクイズを出し合うのです。お母さん「お母さんは、今日とてもあせりました。どんなことだと思う? ①買い物に行き財布を忘れた ②家の鍵をなくした ③洗濯機がこわれた」子ども「何だろ?①?」意外ですが、クイズで子どもの世界や気持ちがよくわかったそうです。また、クイズで知ったことは絶対に叱ったりしなかったそうです。考えただけでも楽しそうな感じがしますね。

困ったことなどの問題を解決することは、子どもでもなかなか大変です。大人が考えるほど、簡単には解決できません。「気持ちは良くわかったよ。これから、どうしたらいいか、一緒に考えようね」とか「なんかいい方法がないかお母さんも考えてみるから、また相談しようね」と、子ども主体で親がサポートするくらいがいいのではないかと思います。

ただ、このように対応を考えるのは、ある程度自分の思いや行動が説明できる年齢だろ

うと思います。個人差がありますが4～5歳くらいかなと思います。しかし、その年齢より小さい子どもたちはぜんぜん気持ちが分からないのか？といえそうではないと思います。小さい子は、まわりから「ダメ」と言われることは多いのです。そのときの様子をよく見てあげましょう。「本当はあれがほしかったんだよね。でも、よく我慢したね」と認めてあげることが大切です。いつも「ダメ」と言われている子ほど、自分の気持ちを分かってくれる人への信頼感は半端ではありません。

子どもは「自分自身の人生」という物語の主人公として舞台に立っているのです。その姿を舞台袖から笑顔と温かい眼差しで見守るか、心配そうな表情で見つめたり、我慢できずに舞台へ上がって叱責したりするかで、主人公の子どもの自信や意欲は大きく変わってしまうことが考えられます。大きくなり困難な場面に遭遇したとき、子どもが主体で考え行動してきたか、親の指示を頼りに行動してきたかで、歴然とした差が出るでしょう。親として、子どもが「自分の力で育っていく」ことを信じてあげようではありませんか。

## テラスがきれいに!!



先日、園ホームページの「ようちえんの日常」で、2階のテラスがきれいになったことをお知らせしました。9/3(月)始業式のすぐ後にテラスで遊んでいる子どもたちを見ました。新しくなったテラスは、合成ゴム素材でクッション性があります。感触はなかなかよく、なわとびなどは気持ちよくできていました。だんだん過ごしやすくなると、テラスのニーズはグンと高くなりそうです。子どもたちがテラスで楽しく遊び、活用してくれるといいなと思いました。

## 「手から手へ」という詩集

「手から手へ」という詩集を購入しました。植田正治さんの写真に池井昌樹さんの詩を合わせて、この本ができあがっています。以前、大山の山裾近くの麦畑にポツンと建っている「植田正治写真記念館」を訪れたことがありました。かなり古い写真家ですが、今風のインスタばえする写真が多く、まったく違和感を感じなかったのです。家族を鳥取砂丘で撮した写真、そのときの娘さんの作文など、興味深い資料が展示してありました。

あの写真記念館で見た代表的な作品が、この本に載っていました。詩もいいのです。この本が好きになりました。皆さんにお勧めします。

帯には……「どんなにやさしいちははも、おまえたちとは一緒に行けない どこかへやがてはかえるのだから 詩と写真でつづる、あなたにとっていちばん大切なもの 一 家族のものがたり。」と、ありました。

